

# 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に係る研修会（その9）を実施しました。

新たな学校教育準備プログラム推進事業  
通信 No.10

平成 31 年 3 月 4 日  
教育指導課教育課程係

## 『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善』（その2）

東京学芸大学教育学部 准教授 高橋 純 氏

先日、2月26日(火)に、青葉区の拠点校として「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の実践に取り組んでいる仙台市立北六番丁小学校（伊藤敏子 校長先生）において、2回目の研修会が行われました。今回も、東京学芸大学教育学部准教授の高橋純氏をお招きし、北六番丁小学校の研究主題「主体性をもってかかわり合い、互いに尊重し合う子どもの育成」に基づいた授業公開と、その授業の講評を含めながら「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」について高橋准教授から講話がありました。指導案作成



- 第4学年 国語科  
単元名：わたしたちの生活と  
          ロボットについて考えよう  
          授業者： 高橋周太 教諭
- 第5学年 算数科  
単元名：分数のかけ算とわり算  
          授業者： 菊池蓉子 教諭

に携わった仙台市教育センター関場雅也指導主事、野中映里指導主事を含め、68名の先生方が参加し、充実した研修会となりました。高橋先生からは、公開授業への助言を含め、「学習規律の大切さ」「ICTを活用する際の留意点」「知識の理解の質の向上について」等々、様々な視点から新学習指導要領の目指す学びについてお話いただきました。高橋先生の講話の概要は次のとおりです。

### 「学習規律」の大切さ

- 教師として  
教え方が多少下手 } どちらが「取り返しがつかない」か？  
学習規律が不徹底 }
- 学習規律の方が、より取り返しがつきにくい。



- ・「主体的に話し合う」にも、ある程度の規律（決まり）は必要である。
- ・縛り付ける意味での規律ではなく、集団生活の中で児童生徒全員が気持ちよく頭をフル回転させて、学習課題に取り組めるようにするための仕組みを決めておくことは大切である。

### 「学習をした」とは

- 「学習の内容が分かった」だけでなく「学習の仕方が分かった」ということが大事である。  
(学習規律や基礎基本は、「学習の仕方」の一つとして捉えて、さらに発展させる)  
→ 最終的に、児童生徒は皆、教師、親から離れ、一人で学び続けていかなければならない。
- 「子供に、すぐに考えを聞いてしまう病」(小学校の教員に多く見られる)  
→ まずは、子供にしっかり観察させ、事実が何かを認識させることを大切にする。考えを聞くのは、その後である。

## ICTの活用について

- ICTを使用することで、すぐに学力が向上するのではない。ICTを活用し、明確に指示をしながら学習させることが、学力の向上につながっている。
  - 指示のコツ（「することを端的に説明する」「どのくらいやるのか具体を示す」「終わったら何をするか示す」等）の認識がないまま、ICTを活用したとしてもうまくいくものではない。

## 「考えよう」という言葉

- 「考えよう」という言葉は、とても便利な言葉であるが、子供たちが「考えない」ことはない。この言葉は無責任な言葉の一つである。
  - ‘考える’とは、何をする事なのかを、教師が別の言葉に置き換えられることが大切。
    - ※ 『比較する』ことも『関連付ける』ことも『まとめる』ことも、全て‘考える’こと。授業者が、子供たちに「何を、どのように考えさせるのか」というストーリーを持っていることが重要である。
- 新学習指導要領に求められているものは『質の向上』。そのキーワードは、「学習過程（学びの過程）」と「見方・考え方」である。
  - 各教科等の目標の冒頭は全て「見方・考え方」を働かせ、どのような資質・能力を育成することを旨とするのかが記されていることに留意。

## 何のための「主体的・対話的で深い学び」なのか

- 「主体的・対話的で深い学び」は手段、目的は「資質・能力の育成」であり、「知識の理解の質を高めること」が問われている。
  - 「答えを出す」だけで終わりではない。「どのようにして答えを導き出すのか」「なぜ、そのような方法で答えを導き出すのか」ということを説明できる力が、非常に大切である。
- 言語活動や思考活動等を繰り返すことで、知識の点と点が結ばれ、たくさんの線ができてくる。
  - ネットワーク化、構造化されてくる状態 = 「知識の理解の質」が高まっていく状態
    - ※ パターン化して「繰り返す」ことが必要となってくる。
- 「子供に考えさせる授業」は日本中で行われているが、教師の指示の下、教師が考えさせる内容を提示した上で考えさせている。
  - ※ 教師がいなくなったら考えられなくなる……。
  - 一人で考えられる子供を育てることが大切。そのためには「考える手順」を教えなければならない。

[例：探究的な学習の過程（『課題設定』→『情報の収集』→『整理・分析』→『まとめ・表現』）のシンキング・サイクル]



今年度の「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善普及支援事業」に係る拠点校の実践報告は、今回で終了となります。次年度も引き続き『北六番丁小学校(青葉区)』『七北田小学校(泉区)』『榴岡小学校(宮城野区)』『沖野中学校(若林区)』『人来田中学校(太白区)』に拠点校として実践を進めていただきます。また、「カリキュラム・マネジメントのコーディネーター養成」は次年度が、最終年度となり「宮城野区、若林区、太白区」の学校を対象に研修を行います。今後も、各学校におかれましては、新学習指導要領の理念の実現に向け、全職員の共通理解の下、取組を推進いただくようお願いいたします。